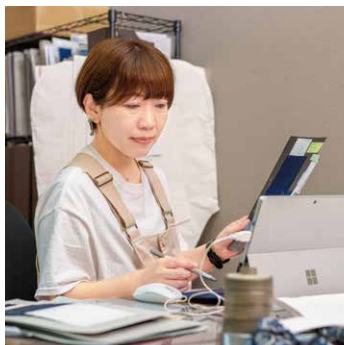


大量生産でもなく一点物でもない、 今のバランスがちょうどいい

森元ミカ
企画 / デザイン

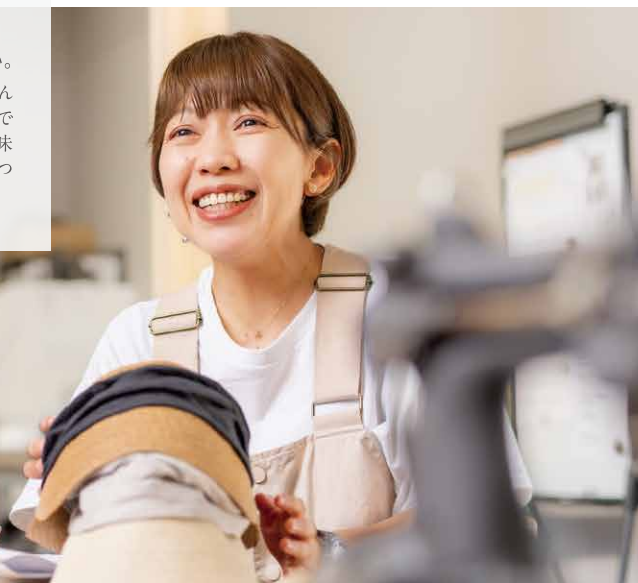


もっと生の声

Q & A

— デザインするうえで心がけていることはありますか？
自己満足ではなくお客様に喜んでいただくこと。帽子はかぶり心地を一番考えています。テキスタイルは、美観地区という観光地に直営店があるので、「ここにしかないもの」を意識して、特産品のままかり、果物、オリーブなどをモチーフにデザインしています。特産品といっても和柄ではなく、海外からの観光客の方が帰国しても普段使いできるようなデザインになるように心がけています。

— 将来繊維産業に従事する人へメッセージをください。
自分たちが作り出すものが誰かを笑顔にする。そんなやりがいのある仕事です。資格やスキルも大事ですが、もっと大切なのが好奇心。好きなことや興味のあることを目一杯楽しんでほしいです。それがいつか、誰かの笑顔に繋がると思うから。



東京でバイヤーをしていた森元さんは、子育ては田舎でしたいという思いから、出産を機に地元に戻って来ていました。入社の一きっかけは、2011年に、美観地区に出店したお店の特集記事を偶然見かけ、本社が地元の浅口市と知って「こんな素敵なお店を出している会社で働きたい!」と直接電話をかけてアタックしたのだそうです。

会社はちょうど、下請け中心からオリジナルの帽子製作に主軸を移し始めたとき。入社時に社長から「帽子のパターンとデザインをやって欲しい」と言われ、高校、専門学校と服飾の勉強はしていたものの帽子については未経験でしたが、「好きで入った世界だから大丈夫」と社長の後押しもあり、帽子の教科書を買って、一から勉強しながら取り組むことになりました。

ブレードと布帛帽子を組み合わせた商品で、森元さんのデザイン力が存分に発揮され、入社後数年で、入社時から社長と目指してきた伊勢丹新宿店での取引が始まります。

バイヤー時代は自らの手で「ものづくり」をしたいというゾレンマがあったこともあり、「大量生産でも一点物でもなく、お客様に求められるものを必要な分だけ作ることのできる今のバランスがちょうどよく、仕事に幸せを感じています。」と話す森元さん。現在は、帽子以外にもウェア、バック、素材として使用する生地オリジナルデザインなど仕事の幅はどんどん広がっています。

